



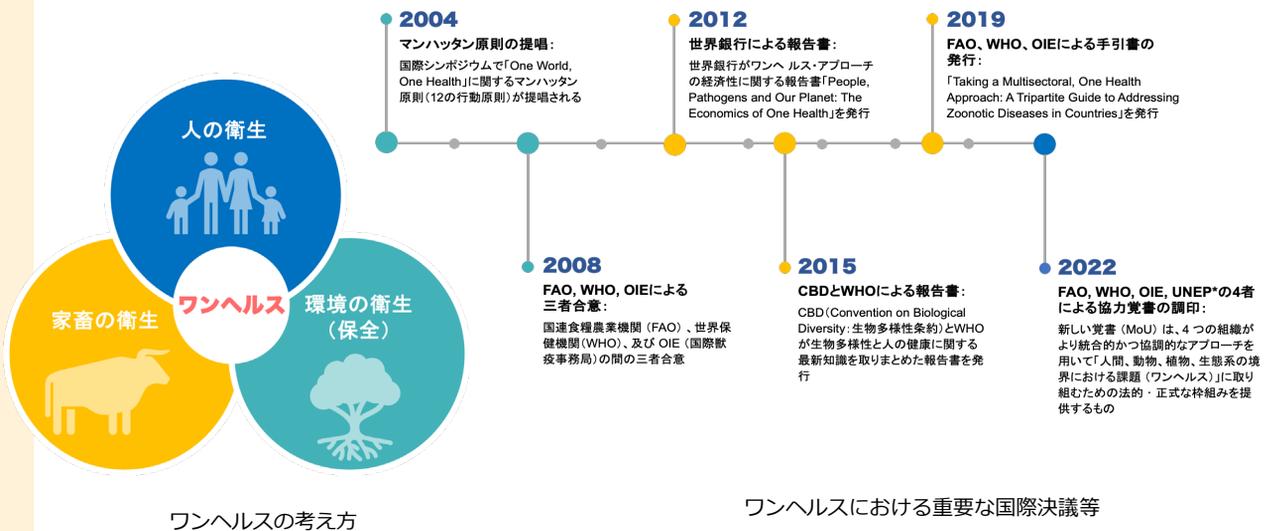
ワンヘルス

要旨

- 近年の新興・再興感染症には人獣共通感染症が多く、人・動物・環境それぞれの健康を担う関係者が緊密な協力関係を構築して横断的に連携協働することにより、これら3者の健康を維持・推進していこうとする「ワンヘルス (One Health)」という概念が重要視されるようになってきている。
- 昨今の国際潮流の流れを受け、ワンヘルスはますます重視されるようになっており、人獣共通感染症、薬剤耐性 (AMR: Antimicrobial Resistance)、食の安全等の分野での適用が進んでいる。

概要

- 近年の新興・再興感染症には、高病原性鳥インフルエンザ・SARS・エボラ出血熱等の人獣共通感染症が多く、人に発生が認められた新興感染症のうち約72%が野生動物または家畜に由来すると言われている。森林伐採を伴う大規模農業開発や宅地開発、気候変動による媒介動物の生息域の変化などを背景に、人と動物、そして環境 (生態系) のインターフェースで生じる、こうした病気の発生や拡大の新たなリスクに対応するため、これら三者の健康を維持・推進していこうとする「ワンヘルス (One Health)」という概念が重要視されるようになってきている。その推進には、人の衛生、家畜の衛生、環境の衛生 (保全) に関わる関係者が横断的に連携共働することが求められる。
- ワンヘルスとは、人、動物、生態系の健康の持続的なバランスと最適化を目指す、統合的で統一されたアプローチである。ワンヘルスとは、人間、家畜、野生動物、植物、そしてより広い環境 (生態系を含む) の健康が、密接に関連し、相互依存していることを認識し、社会のさまざまなレベルのセクター、分野、コミュニティを動員して、健康 (ウェルビーイング) を育み、健康と生態系への脅威に対処するために協力し、清潔な水、エネルギー、空気、安全で栄養価の高い食品、気候変動への対策、持続可能な開発への貢献という共通のニーズに取り組むものである^[1]。
- ワンヘルスは、国際的には2004年国際シンポジウムで提唱されたマンハッタン原則において掲げられ、グローバル化した世界における健康に対する学際的・横断的な連携を実現するための12項目の提言が行われた。さらに、2008年の国連食糧農業機関 (FAO)、国際獣疫事務局 (WOAH)、世界保健機関 (WHO) の間の三者合意、2012年のワンヘルス・アプローチの経済性に関する世界銀行の報告といった国際的な動きを受けて、ワンヘルスは公衆衛生及び家畜衛生においてますます重視されるようになっており、特に人獣共通感染症、AMR、食の安全の分野での適用が進んでいる^[2]。



1 WHO. Tripartite and UNEP support OHHELP's definition of "One Health." URL: <https://www.who.int/news/item/01-12-2021-tripartite-and-unesp-support-ohhelp-s-definition-of-one-health>
 2 環境省自然環境局生物多様性センター。「ワンヘルス」に関連する国際的な動向等。URL: https://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/initiatives6/files/6_2-1_onehealth.pdf

サーベイランス分野におけるワンヘルスの取り組み

JICAは、保健医療、紛争、気候変動等、複雑化する開発課題に挑むため、20の「JICAグローバル・アジェンダ（課題別事業戦略）」を設定し、中でも重点的に取り組む事業のまとまりを「クラスター事業戦略」として、取り組みを強化している。JICAグローバル・アジェンダ「保健医療」のうち、「感染症対策・検査拠点強化クラスター」で対象とするサーベイランスの分野においては、家畜・野生動物における感染症アウトブレイクの人の健康を所掌する保健当局側への通報制度の確立、家畜・野生動物の感染症サーベイランスと人に関するサーベイランスの一元化或いは情報共有体制の確立等が求められている。このためには、当該国内でのマルチセクター（保健省・農業省・環境省等）での取り組みが必要であるが、実際上記のようなワンヘルスの取り組みが実質的に機能している国は未だ限定的である。人獣共通感染症のアウトブレイクを未然に防ぐためにはマルチセクターで連携・情報共有する仕組みが必須であり、セクター間の垣根を越えた関係者間の関係構築を図る必要が求められている。また「持続可能な畜産振興クラスター～ワンヘルス推進に向けて～（仮称）」との連携と情報共有を進めることも重要である。

事例

フィリピン フィリピンにおける狂犬病排除に向けたワンヘルス・アプローチ予防・治療ネットワークモデル構築プロジェクト 2018年8月～2023年8月

フィリピンでは狂犬病による死亡例が年間200～300人報告されており、公衆衛生上重大な問題とされている。狂犬病は、これに感染したイヌなどの動物からの「かみつき・引掻き」により感染し、発症すれば重篤な神経症状をわずらい、ほぼ死亡するウイルス性人獣共通感染症である。同国では、保健省と農業省が協力して狂犬病撲滅に向けた取組みを行っているが、診断施設が限られており、また加害動物の狂犬病ウイルス感染状況の情報入手や医療機関との連絡体制も十分に機能していない。この協力では、狂犬病に関する日本の知見を活用、検証し、新規診断法の開発と、動物とヒトの診断情報を共有し効率的な予防対策活動につなげるワンヘルス・ネットワークモデルの構築を支援する。



イヌの狂犬病ワクチン接種の様子



イヌの狂犬病の検査キット

タンザニア ワンヘルス・教育・官民連携による顧みられない人獣共通感染症介入の共同デザインに関する研究開発プロジェクト 2024年8月～2029年7月

タンザニアの家畜飼養頭数はアフリカで3番目に多く、畜産は同国の農業GDPの27%を占める重要な産業である。また、この地域には、伝統的に動物由来食品を加熱せずに喫食する文化がある。このような中、ブルセラ症や人獣共通結核といった乳や肉等の動物由来食品を介した人獣共通感染症の発生が報告されている。これらを制御するには、保健セクターによる検査と治療だけでなく、感染源対策の観点から、畜産セクターと協働したワンヘルス・アプローチが必要である。一方、同国の関連法では、ブルセラ症と人獣共通結核の予防に向けた家畜のワクチン接種や摘発・淘汰などの対策方針が示されておらず、また州政府からコミュニティに至る地域全体での両疾病への適切な理解と制御体制の構築も課題となっている。この協力では、タンザニア南東部のモロゴロ州において、家畜と人における両疾病の制御に必要な基盤情報の整備と、バリューチェーン関係者および消費者の行動変容を促す介入条件の特定、ならびに介入体制の構築を行うことにより、ワンヘルス・教育・官民連携による制御アプローチの確立と実践を目指す。



農家から集めた牛乳を加熱する女性酪農組合のメンバー



遊牧の実態を把握するためのデバイス使用法を説明するJICA専門家